日本のプロコーチ宣言第1号 榎本日出夫（日立戸塚コーチ）

私のバスケット生活

その（22）

二つの目的樹立

「読まれぬパス作り」に取り組む

長身者対策などに専心

第十回日本リーグで「V2」を達成したあと、練習もろくにしないまま、時間の太平洋化学と親善試合をすることになりましたが、チームのコンディションづくりもないまま試合をしたため、まるで〝日本一の力〟も発揮できないまま、負けてしまいましたが、勝った負けたは別として、パスに関しては多くのものを吸収することができました。

なにしろ、ボールハンドリングの確かさ、ボディコントロールの良さなどからくる〝読めないパスライン〟。どうしても、戸塚の選手たちのパスを見ていると、これはなんとかしなくてはーという考えにうたれました。

それからというものは、〝読まれないパスづくり〟を目標に練習を始めました。

それともう二つはオールジャパンでは現状既、決勝と大きい選手を持つチームと続けて当たることにして、スタートしたわけです。

二週間のあいだは、パス技術をしていくためには、基礎練習から変えなくてはならないところも多くありましたが、時間的にも一ケ月足らずということで、多くは望まないことにして、できる範囲でやり、「正確性」に重きをおいた練習づくりをすることにして、スタートしたわけです。

二週間のあいだは、パス技術の向上、基礎練習ともちろん、やるものの、高校生とのゲーム、練習をきちんと、いやな顔も見せずに一緒にやるのですが、今年は名電工との試合で精神力、体力を使いきってしまったのか、高校生と共にやっていても、どうもピリッとせず、元気なはずの下級生までがゲームに多く出る上級生と共に、グッタリきてしまい、高校の先方に今年はどうしても勝ってもらいたいから、一緒に高校生との練習につきあってもらわなくても、いいなどと、かえって気をつかわせる結果になってしまい、おおいにありがたく感じたものの、大自分達の練習はもちろん、やるものの、高校生とのゲーム、練習をきちんと、いやな顔も見せずに一緒にやるのですが、今年は名電工との試合で精神力、体力を使いきってしまったのか、高校生と共にやっていても、どうもピリッとせず、元気なはずの下級生までがゲームに多く出る上級生と共に、グッタリきてしまい、高校の先方に今年はどうしても勝ってもらいたいから、一緒に高校生との練習につきあってもらわなくても、いいなどと、かえって気をつかわせる結果になってしまい、おおいにありがたく感じたものの、大

そして、これは全日本で優勝して、恩返しをするしかないと心に誓ったものでした。

したがって、名電工とのゲームは熾烈（しれつ）をきわめたものになり、野牧先生や高校の選手達にも疲くまでつきあってもらったり、苛あぎをつけさせてしまったりの結果にはなりましたが、なんとか毎日の試合の中で、各人が〝大きさ〟に馴れてきたのは、こちらの指示するディフェンスの顔熟も、こなしてくれるようになり、これならば、80％は大丈夫だという結論を出せるようにまで、チームはアップしてきました。

せっかく、合宿に来て下さった女子高校チーム、中学生チームの選手、先生方には大変に迷惑をおかけしたものの、その分チーム力は大幅に増大し、プレイにも余裕がでてきました。

あとは残るゲームまでの一週間、コンディショニングをするだけとなり、新年を皆で迎え、深大寺へと初詣に行き〝必勝〟を願いあいました。

そして、いよいよオールジャパンをむかえることになったのです。

〈続く〉

いう大型のチームの監督である野牧先生が、市邸学園高校の新山先生と親しいこともあって、この無理な注文をどころよく引き受けて下さり、もっとも、高校生にとって大事な春の合宿を戸塚でやって下さることになりました。

そんなわけで、戸塚の選手達もこれはどんなことをしてもオールジャパンには勝たなくてはならないという思いが、日ごとに強くなっていくのが手に取るようにわかり、かえって私自身あわてたくらいでした。

例年はもちろん、今年も春にたくさんの女子の高校生チームが来て下さり、朝から夜中までゲーム、練習と大変なスケジュールを消化していくわけなのですが、この間、戸塚のチームは寒な合宿に戸塚を選んでくれたのに、何もしないで帰ってしまわれたのでは……と大いに悩んだものでした。

榎本日出夫

武蔵中学（東京）、武蔵高校（同）、武蔵大学（同）をそれぞれ卒業。現在、女子実業団チームの日立戸塚コーチ。昭和十六年七月七日生まれ。〈現住所〉横浜市戸塚区舞岡町一三二一ロー一六。電話〇四五（八一二）二七〇九番。

＝前号までのあらすじ＝

十年前のある夜、杉野短大からコーチ依頼の電話を受け、深く考えずに好きなバスケットができる！と引き受けたことが私の人生を大きく変えた。その後、日立戸塚を見るようになった時、どうせやるなら！と「プロコーチ」の看板をあげ、〝バスケットでメシを食う決心〟を固めた。そして色々の苦労を重ねながら、ようやく日本リーグ入りを果たし、一時は疲労が重なってバスケットから離れようと考えたが、大好きなバスケットや選手たちと別れてまでやめる勇気はなく、再度「日本一の座」を目指して、もう一度挑戦する決心を固めた。そして、まず優れた素材集めにのり出し、ようやく集まってきたが、今度は〝異質の人間集団〟を同じ目標に向かわせるための気持の統一を図り、この年（四十九年）は日本リーグ、オールジャパンとも三位となった。そしてむかえた五十年。日本リーグで強敵に連勝して念願の初優勝を遂げ、さらにオールジャパンも制覇して遂に「日本一」の座についた。五十一年をむかえて合宿が終けたが、首尾よく日本リーグ二連覇を達成、全日本二連勝を目指して始動した。

暮の合宿に高校チームら招く

BASKET BALL IS MY LIFE